

第五期 中間活動報告会

REF 第五期中間活動報告会が三月二日(金)にアオッサ七階のふくい県民活動センター706会議室で行われた。当初は二月九日を予定していたが、福井地域の豪雪に伴い延期した。それにも関わらず、約二十名と多くの参加者があった。

「道路交通安全分科会」「交通分科会」「県境道路分科会」「水分科会」「地象分科会」の五分科会によるこれまでの活動報告および新規入会者について報告された。

加藤哲男理事長からの挨拶に始まり、梅田祐一氏の司会のもと、各発表時間八分、意見・質問二分の時間内でそれぞれの分科会の発表、講評が行われた。報告後には川本義海氏による総評が行われた。

そのあと、田辺毅氏による会員入退会の確認が行われ、宮本好昭氏により閉会のことがあった。報告会終了後、会場を移し交流会が行われた。先日の豪雪に因み、五六豪雪の話を伺うことができ、学生会員にとっては新鮮だった。ビールを片手に持つ“和やかな雰囲気”の交流会は、会員相互の交流を深めた。



司会の梅田氏



加藤理事長による挨拶

【分科会報告会】

五分科会の要旨と議論された内容について掲載する。

内容と要旨に先立ち、川本氏の総評をここで報告する。五分科会の中間報告を踏まえて、地域への貢献もしくは地域の人たちと意見交換を目的とした研究が多い。今後の展開として、専門的な研究内容をどのように一般の人たちへ伝えるか? もしくはどのように研究成果を実現に移すか? が今後の課題であると総評された。

夏に予定されている研究報告会では、各分科会の今後の進展が非常に楽しみである。



総評を行う川本氏

【道路交通安全分科会】

発表者…加藤哲男
質疑者…鹿内愛軌

「自動運転・自動走行システム社会における課題の整理」

近年、先端技術の開発が進み、モータリゼーションの自動運転化が取り組まれている。道路交通安全分科会では、道路交通の安全性に関する研究や政策・事業に関する文献の整理・分析を行ってきた。今年度は「自動運転」に着目し、その実現において検討される「自動走行システム」の課題を整理し、我が国の自動走行システムの現状について俯瞰している。

- ・自動運転システムの定義を抽出
- ・自動運転の課題を整理した内容
- ・各方面からの施策、政策的な取り組み

また、福井県の永平寺町で行われている産総研(経産省から受託)の取組みが紹介された。当実験はラストマイル自動走行をテーマとし、特に過疎地域でのモデル実験である。道路に磁気テープを埋め込み、その上を専用車輛(ゴルフカート)が自動走行するものである。一定の降雪があっても、問題なく自動走行が行われたようである。

今後に向けては、SIPプログラムの創設以降、各地で実証実験が行われ、調査結果等が公開され始めてきた。今後は、それらの状況把握を行うとともに、道路交通安全面の課題を整理していく予定である。



発表を行う加藤氏、
質疑を行う鹿内氏



発表を行う窪田氏、
質疑を行う玉村氏



発表を行う橋本氏、
質疑を行う森氏

【地象分科会】

発表者：窪田吉倫
質疑者：玉村美樹

「福井の地名から学ぶ防災・減災について」
〜大野の歴史を紐解く〜」

大雨等の防災・減災を考えるにあたって、気象と並ぶ重要な要素として地形があげられる。地形を読み解くにあたって地名は、その地域がどのような地形であったか、災害が起こり得たか等の、災害リスクを把握するのに有効な要素だと言える。

NPO第三期は、福井市における日野川と足羽川が流れていた渡町等、社西から社北、東安居地区にかけて現地調査を行い、地形の成り立ちと地名の繋がりについて考察した。NPO第四期は、福井市における九頭竜川が山間部から平野部へと流れ込む東藤島近辺の現地調査を行い、地形的特徴をまとめ、村の成り立ち、地名の由来を探ると共に、災害を暗示する地名について考察を行った。新たな視点として、この地域が地元である会員の苗字に着目し、苗字と地形の関係、地形判読から見る村の成り立ち、地名について考察を行うなど、視点を変えて取り組んだ。

今期は第三期から引き続き現地調査を通して、その地形をとらえ、地名との関連について考察していく。調査対象地は、分科会員の一人の地元である大野市、特に中心市街地を選定した。越前大野城のお膝元である大野市中心市街地は、金森長近により碁盤の目状にまちづくりが形成されている。長近は町の東端にお寺を集めて、城から寺町に向かって、西から本町・二番・三番・四番・五番通りを配置し、南北には六間・七間・八間通り、石灯籠通りを整備し現在の碁盤を形成した。

調査は越前大野駅を出発点とし、地下水の流れと歴史をたどり、日吉神社、本願清水イトヨの里、御清水、百間堀、七間通り、寺町通りというように市街地調査を行った。現地調査から、信長から与えられた盆地等の歴史的背景や、御清水等の地下水による地形的特徴が見て取れた。

今回は十月に実施した現地調査について歴史的背景や、地形判読や、地下水を利用した街並みの特性を踏まえ、防災面について考察・提案していく。

【県境道路分科会】

発表者：橋本拓己
質疑者：森智生

「人口減少、高齢化、国際化（観光）
時代における県境道路の在り方」

第四期は、国土交通省において福井県池田町と岐阜県揖斐川町を結ぶ国道四一七号冠山峠道路の事業が進められている池田町の現地調査を行った。

第五期は、冠山峠道路の先進事例として、滋賀県東近江市と三重県いなべ市を結ぶ国道四二一号石樽峠道路を調査した。

石樽峠道路は平成二三年に完成し、一般供用後六年以上経過している。そのため、県境道路の整備に伴う地元への定着などの効果を定量的に把握することが可能である。なお調査として、現地調査および地元へのヒアリングを実施した（表1）。結果については、最終発表で報告する。

また上記の他に、文献調査として、『限界集落の真実―過疎の村は消えるか？』山下祐介ちくま新書、を輪読している。

表1 調査概要

日時	平成29年8月31日(木)8:30~19:00
調査箇所	道の駅「奥永源寺溪流の里」 国道421号石樽トンネル 道の駅「湖東三山館あいしょう」 道の駅「あいとうマーガレットステーション」 ラ コリーナ近江八幡
ヒアリング	東近江市政支所(道の駅奥永源寺溪流の里内) (東近江市職員、道の駅駅長「奥永源寺溪流の里」)



発表を行う山田氏、
司会を行う梅田氏



発表を行う荻原氏、
質疑を行う西谷氏

【水文科会】

発表者：荻原貞宏
質疑者：西谷光史

「丹南地域のインフラツアー」
〜観光客誘致の呼び水に〜」

国土交通省が推進している、日本の優れた土木技術に裏付けられた造形美及び壮大なスケールを体感できるインフラツーリズムに着目し、福井県独自のインフラツアーを企画立案することを目的として活動を行った。

対象地区は日本海に面し、中央部に九頭竜川水系の日野川が流れる水との関わりが深い丹南地域とした。今回は新たな魅力あるインフラ施設を発見することも目的としていることから、インフラの代表施設であるダム(広野ダムや枅谷ダム)に頼らないツアーを目標とし、調査を進めた。

調査施設としては、以下の通り。

① 波力発電所…世界初のブローホールを備えた波力発電装置を建設し、地球温暖化対策を体感することができる。

② 厨(くりや)西護岸…冬期風浪における漁船転覆の被害をうけ、護岸の天端高さを六・三メートル嵩上げし、護岸としての高さとしては日本一となった。

③ 糠川トンネル…洪水流下能力の低い糠川の課題と、河川沿いを通る狭小な道路幅員により生じる交通問題を解決するために建設された県内唯一の河川トンネル。

④ アカタン砂防…周囲の自然景観と調和しながら砂防堰としての土砂防止機能を発揮しており、国の登録有形文化財に登録されている。

⑤ 旧北陸トンネル群…敦賀市・南越前町間の峠を通り抜けるため掘られた十三本のうち十一本が残っており、国の登録有形文化財として登録されている。今回調査した時期に降雪があったことからアカタン砂防を見ることができなかったため、再調査を行うとともに、アピールポイントの整理を行い周辺観光も取り入れて一つのツアーとして提案していく。

【交通分科会】

発表者…山田将大
質疑者…森智生

「歩行者・自転車を取り巻く

環境に関する研究(その2)」

「国土のグランドデザイン2050」において、①総合的かつ計画的な交通施策の推進(交通政策基本法に基づく)、②今ある道路を賢く使う取り組み(歩行者・自転車事故を克服するため)、③都市部の良好な環境の創出(交通手段の多様性や安全な歩行空間の確保)の方策が挙げられている。

さらに今後の自転車の在り方を示した「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」(H28改訂)、自転車環境の整備を示した「自転車活用推進法」(H29施行)がある。

第四期に引き続き、歩行空間や自転車の利用環境、シェアサイクルの運営方法や、買い物等での日常利用・観光目的での利用の促進に関して、現地調査および資料・文献調査によって探ることとする。

分科会の活動記録は表2に示す。上記の日程で、自転車の安全利用の促進、自転車専用道の整備事例(沖縄県名護市)、安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインの改定内容、自転車通行空間の整備事例(埼玉県さいたま市)、国内外のシェアサイクルの動向の五項目について研究を行った。

表2 第五期の活動記録

第1回	H29.6.22	・第5期の活動方針について ・文庫調査報告 ①自転車の安全利用の促進について(山田) ②沖縄県名護市の施策と遊歩道58号自転車専用道の整備(前田)
第2回	H29.8.24	・研究方法の検討 ・文庫調査報告 ③「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」の改訂(橋本) ④国道17号さいたま市内の自転車通行空間整備による通行状況の変化(川本)
第3回	H29.11.30	・文庫調査報告 ⑤国内外のシェアサイクルの動向と管理・運営面での課題(三寺) ・活動提供 愛媛県松山市の自転車利用環境(吉村)
第4回	H30.1.25	⑥大阪府の中心部下記の内容をメールにて確認 ・中間報告会での報告内容について ・研究報告会に向けた活動について



宮本氏による閉会の言葉



田辺氏による会員入退会について

【市民活動パネル展に出席】

十一月二日(木)〜十一月八日(水)までの一週間、ボランティアを行う市民活動パネル展@ハピリン・モールに出展した。



【第五回NPO・REF談話会】

第五回NPO・REF談話会が十一月二八日(火)にふくい県民活動・ボランティアセンター706会議室(アオッササ七階)にて行われた。

二〇一七年度REF海外研修調査報告「四川省都市・地域づくり調査」に基づいて講演が行われた。中国での「緑を大切にする都市政策」「レンタサイクル」「バス高速輸送システム(BRT)」「大街道でのラウンドアバウト」など都市の様子を写真やビデオを使い、詳しく報告された。

なお、当日配布された調査報告書のPDFファイルはHPにアップされており、本年七月発行の機関誌に掲載される予定である。



浙江省杭州市「知味観・仁交和路本店」で開催された交流会の写真 2017.9.17

★入退会のおしらせ★(敬称略)

《入会》

正会員 野嶋 慎二様

賛助会員

池田 達昭様
林 博様(正会員から移行)

《退会》

なし

《逝去》

宮本 教男様(正会員)

平成三十年三月時点

【会費の納入について】

会費の納入をお願いします。

■年会費

正会員 … 12,000円
賛助会員 … 3,000円

■会費納入先

《振込みの場合》
ゆうちょ銀行

振替口座 730・3・20396
福井地域環境研究会

※機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》

総会、中間報告会、談話会等開催時、または、左記、財務幹事まで直接お支払いください。

【財務幹事】

〒910-8580

福井県福井市大手3丁目17-1

福井県土木部河川課

清水 健

TEL 0776・20・0481(内線3393)
Mail t-shimizu-j3@pref.fukui.lg.jp

	H30.3	備考
正会員	71	入会+1 賛助会員へ移行-1 逝去-1
賛助会員	38	入会+1 正会員から移行+1
計	109	